

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）	1
1. 理工学部	3
2. 工学研究科	5

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	教育活動の状況		教育成果の状況	
理工学部	【3】	高い質にある	【2】	相応の質にある
工学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある

1. 理工学部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 4)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 4)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 高い質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

教職員が行っている授業を見学することができる「授業公開ウィーク」を前後期各1回（年2回）実施している。授業参観者にアンケートを実施し、評価が高かったものを「Good Practice」として選定し、全教員へフィードバックを行っている。また、教員のファカルティ・ディベロップメント（FD）参加率も高くなっている。

〔優れた点〕

○ 「授業公開ウィーク」は、教職員が実際に行っている授業を見学することができる取組であり、前後期各1回（年2回）実施している。授業参観者にアンケートを実施し、「授業に取り入れたい事例」の中から特に評価が高かったものを「Good Practice」として選定し、全教員へフィードバックを行っている。

FD活動への参加率及び延べ参加人数は、平成28年度320名85.8%（169名／197名）、平成29年度333名90.3%（167名／185名）、平成30年度358名87.1%（157名／179名）、令和元年度288名84.4%（141名／167名）であり、高水準を維持している。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔特色ある点〕

○ 全学的なボランティア活動等の情報を一元化するため、平成28年度に「学生ボランティア支援部門」を新たに設置した。平成30年度には、被災地支援の災害ボランティア活動に参加する学生を支援するために、ボランティア活動保険料を大学が負担する制度を設け、学生による社会貢献を支援した。

2. 工学研究科

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 6)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 6)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 「6年一貫教育プログラム」では、将来学生が異分野との融合により技術革新を起こせるような俯瞰力とコミュニケーション能力を養うことを目的とした「相棒型地域 PBL」を設定しており、修士課程1年次の第1クォーターから夏休みの期間に、専門分野が異なる履修生が2～3名のチームを作り、企業と一緒に企業が設定した課題を研究する取組を実施している。
- 平成29年度から企業の技術者を対象とした高度な専門講座（最先端高度技術講座）を公開講座として新たに設け、平成29年度～令和元年度までに10回開講し、室蘭工業大学と包括連携協定を締結している民間企業の社員を中心として92名が受講した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔特色ある点〕

- 室蘭工業大学に隣接する「高砂5丁目公園」のリニューアル事業にあたり、室蘭工業大学教員が従来の住民説明会とは異なり、地域の社会的課題の解決に向けて、地域に関わる多くの主体が各々の得意分野を活かしながら改善する「住民参加型」を提案したことにより、リニューアル事業が完了した現在も、室蘭工業大学の学生が中心となり、高砂5丁目公園コミュニティーを設立し活動を行っている。